

A 聴覚系

音で物事をとらえるのが得意で、相手のちょっとした声の変化にも敏感です。曲を覚えたりリズムで覚えることが多い傾向にあります。騒音があると集中できないため、集中が必要な場面では静かな環境を好みます。逆に、静かな環境ではちょっとした音が気になるので、雑音があった方が集中できるという人もいます。

【聴覚を活かした効果的な学習法】

- ◎オーディオ教材を活用する(特に英語は必須！)
- ◎教科書・テキストを音読する
- ◎学んだことを人に話す(独り言でも可)
- 授業中は、ノートを取ることで「説明を聴く」ことに集中する
- リズムで覚える
- 語呂合わせで覚える

B 言語感覚系

対話をすることや自分なりに理論づけることで理解を深める傾向にあります。学習の対象によって記憶の方法が違う場合もあるタイプです。物事の「意味」や「つながり・関連性」を大切にしています。学習するときは、文章を書いたり、人と話をしたり、あるいはプレゼンテーションやディベートなどをすると効果が高まります。

【言語感覚を活かした効果的な学習法】

- ◎文章を書く、言葉でノートにまとめる
- ◎理由づけや意味付けをして理解・記憶する
- ◎学んだことを人に話す
- ◎人と議論する
- 発表する

C 触覚系

説明を受けるより、まずやってみることを好む傾向があります。また、ボディランゲージを用いて、自分の体で感じていることを、表現しようとする傾向があります。

実際に動いてみて感覚をつかむ傾向にあるので、何かを学ぶときには、手を動かすなど試してみるのが効果的です。

【触覚を活かした効果的な学習法】

- ◎実際にやってみる、体験する
- ◎物を作ったり、操作したりして理解する
- ◎カードを活用する
- ◎体で表現しながら覚える
- 指で文字や図を書く
- リズムで覚える

D 視覚系

頭の中にイメージを表現するために、ボディランゲージをはっきりと使う傾向があります。全体像を大切にする傾向もあります。目の前の風景に影響を受けることが多いため、学習するときは、図やイラストを使うと効果的です。また、周りに何も無い環境の方が集中できるでしょう。

【視覚を活かした効果的な学習法】

- ◎図解化する
- ◎やって見せてもらう
- ◎写真や図の資料集を活用する
- ◎TVや漫画などの映像教材を活用する